

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年7月27日

**【事業年度】** 第51期(自平成22年5月1日至平成23年4月30日)

**【会社名】** 佐藤食品工業株式会社

**【英訳名】** SATO FOODS CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 佐藤元

**【本店の所在の場所】** 新潟県新潟市東区宝町13番5号

**【電話番号】** (025)275-1100

**【事務連絡者氏名】** 執行役員管理本部副本部長兼経理部長 近藤充

**【最寄りの連絡場所】** 新潟県新潟市東区宝町13番5号

**【電話番号】** (025)275-1100

**【事務連絡者氏名】** 執行役員管理本部副本部長兼経理部長 近藤充

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成19年4月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年4月
売上高 (千円)	43,686,298	36,304,114			
経常利益 (千円)	308,789	245,421			
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	42,889	553,881			
純資産額 (千円)	7,666,443	8,111,913			
総資産額 (千円)	25,710,773	24,980,667			
1株当たり純資産額 (円)	1,559.90	1,650.57			
1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額( ) (円)	8.70	112.70			
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	29.8	32.5			
自己資本利益率 (%)	0.6	7.0			
株価収益率 (倍)		11.5			
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	562,418	779,826			
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,828,022	1,486,547			
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,420,920	1,604,969			
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	683,512	22,107			
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	591 (1,677)	364 (565)	( )	( )	( )

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。  
3 第47期は当期純損失のため、株価収益率を記載しておりません。  
4 第47期は、特別損失に旧新潟工場の建物一部撤去等に伴う固定資産除却損148百万円を計上した結果、当期純損失を計上しております。  
5 第48期は、平成19年12月22日に連結子会社(株)パワーズフジミの当社所有株式を全て譲渡したため、当連結会計年度末より連結子会社に該当しないこととなりました。よって、当該子会社の平成19年10月31日までの業績を連結しております。  
6 第49期から第51期は、連結子会社が存在しないため連結財務諸表を作成しておりません。  
7 従業員数は、就業人員を記載しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月		平成19年 4月	平成20年 4月	平成21年 4月	平成22年 4月	平成23年 4月
売上高	(千円)	26,472,749	27,168,458	25,827,278	25,535,587	27,055,994
経常利益	(千円)	461,998	262,898	1,198,784	900,383	1,106,358
当期純利益又は 当期純損失( )	(千円)	65,274	519,263	660,456	493,638	465,599
持分法を適用した場合 の投資利益	(千円)			-	-	
資本金	(千円)	543,775	543,775	543,775	543,775	543,775
発行済株式総数	(株)	5,075,500	5,075,500	5,075,500	5,075,500	5,075,500
純資産額	(千円)	7,745,870	8,156,722	8,662,901	9,122,484	9,439,194
総資産額	(千円)	23,404,226	25,025,476	22,606,404	22,959,153	25,463,711
1株当たり純資産額	(円)	1,576.06	1,659.69	1,803.04	1,898.70	1,964.62
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	(円)	10 (0)	12 (0)	12 (0)	20 (0)	15 (0)
1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額( )	(円)	13.25	105.66	136.76	102.74	96.91
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	33.1	32.6	38.3	39.7	37.1
自己資本利益率	(%)	0.8	6.5	7.9	5.6	5.0
株価収益率	(倍)		12.3	9.1	13.7	16.7
配当性向	(%)		11.4	8.8	19.5	15.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)			5,019,630	148,597	896,161
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)			1,129,622	139,532	303,116
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)			3,870,810	267,494	1,496,989
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)			41,304	20,668	318,379
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	357 (556)	364 (565)	385 (586)	374 (575)	385 (589)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。  
3 第47期は当期純損失のため、株価収益率、配当性向を記載しておりません。  
4 第47期は、旧新潟工場の建物一部撤去等とともに固定資産除却損148百万円、関係会社に対する債務保証損失引当金繰入額130百万円を特別損失に計上した結果、当期純損失を計上しております。  
5 第47期及び第48期は、連結財務諸表を作成しているため、「持分法を適用した場合の投資利益」「営業活動によるキャッシュ・フロー」「投資活動によるキャッシュ・フロー」「財務活動によるキャッシュ・フロー」及び「現金及び現金同等物の期末残高」について記載しておりません。  
6 第49期から第51期は、利益基準及び利益剰余金基準等からみて重要性の乏しい関連会社であるため、持分法を適用した場合の投資利益を記載しておりません。  
7 第50期の1株当たり配当額には、創業60周年記念配当額10円を含んでおります。  
8 第51期の1株当たり配当額には、東京証券取引所市場第二部上場10周年記念配当額5円を含んでおります。  
9 従業員数は、就業人員を記載しております。

## 2 【沿革】

当社は、昭和25年4月新潟市において、創業者佐藤勘作が白玉粉の製造販売を目的とする佐藤勘作商店として創業いたしました。

その後、昭和33年11月に包装餅事業へ進出し、昭和36年4月に有限会社佐藤食品工業所に法人化、昭和41年10月株式会社佐藤食品工業所へ改組、昭和55年4月佐藤食品工業株式会社へ商号変更し現在に至っております。

有限会社佐藤食品工業所設立以後の当社に係る沿革は、次のとおりであります。

年月	概要
昭和36年4月	創業者佐藤勘作が、資本金50万円をもって有限会社佐藤食品工業所を設立
昭和36年10月	新潟県新潟市に新潟工場を設立し、本社を移転
昭和41年10月	株式会社佐藤食品工業所に改組
昭和50年5月	株式会社こぶし食品工業を吸収合併、当社こぶし工場(現北海道工場)とする
昭和50年6月	新潟県新潟市にフジミショッピングセンターを出店し小売事業に進出
昭和52年10月	佐賀県杵島郡に佐賀工場を新設
昭和54年9月	新潟県新発田市に新発田工場を新設
昭和55年4月	創業30周年を記念し、商号を佐藤食品工業株式会社に変更
昭和58年10月	新発田工場において無菌化個包装切り餅の製造を開始
昭和63年4月	新潟工場において無菌化包装米飯の製造を開始し、包装米飯事業に進出
平成2年7月	新潟県北蒲原郡に無菌化包装米飯専用工場、東港工場を新設
平成10年2月	株式会社パワーズフジミを設立し、同年5月に小売事業の営業を同社に譲渡
平成10年5月	有限会社フジミプランニングに遊技場事業の営業を譲渡
平成11年9月	北海道工場において無菌化包装米飯の専用工場を増設
平成13年4月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成18年5月	新潟工場を閉鎖
平成19年12月	株式会社パワーズフジミの全株式を譲渡し、小売事業より撤退
平成20年9月	北海道米飯工場がISO22000:2005を認証取得
平成21年9月	東港工場がISO22000:2005を認証取得

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社及び関連会社(株オリエントプラン)の計2社により構成されており、国内での包装餅及び包装米飯等の製造・販売を主な事業としております。

当社の各製品分類の主な内容及び当社と関連会社の位置付けは、次のとおりであります。

#### 包装餅製品

主要な製品は、サトウの切り餅パリッとスリット・丸餅シングルパック・サトウの鏡餅等でありま  
す。

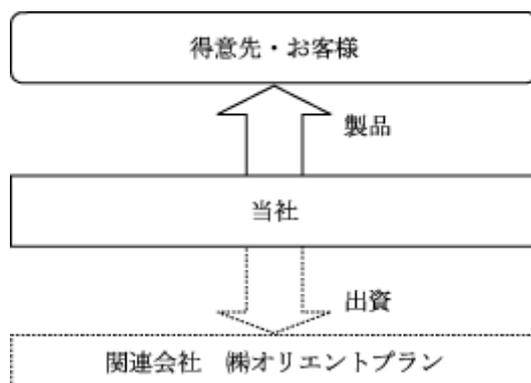
#### 包装米飯製品

主要な製品は、サトウのごはん(コシヒカリほか)・低タンパク米飯等であります。

#### その他

主要な製品は、サトウの白玉粉等であります。

事業の系統図は、次のとおりであります。



### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(関連会社) 株オリエントプラン	新潟県阿賀野市	120,000	ゴルフ場の経営	42.2	役員の兼任 当社取締役2名が取締役及び監査役 を兼任しております。

### 5 【従業員の状況】

#### (1) 提出会社の状況

平成23年4月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
385(589)	38.3	13.6	5,854,190

事業部門の名称	従業員数(名)
販売部門	72 ( )
製造部門	261 (586)
管理部門	52 ( 3)
合計	385 (589)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。また、従業員数の(外書)は、臨時従業員等の年間平均雇用人数であります。  
2 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び再雇用契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

#### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は良好であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、新興国の経済成長を背景とした輸出及び生産増加等により一部に緩やかな景気回復傾向が見られたものの、欧米の景気減速や円高の進行に加え、平成23年3月11日の東日本大震災の発生による甚大な被害の影響もあり、先行き不透明な状況となりました。

当社を取り巻く市場環境も、加工食品の「食の安全・安心」に対する厳しさが一層増しており、高品質な商品が求められる一方で、所得の伸び悩みや雇用情勢の低迷による生活防衛意識から、消費者の低価格化志向は引き続き強く、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社は、安全・安心かつ美味しさの追求に重点をおいた包装餅及び包装米飯の適正価格での健全な販売に努めるとともに、当期経営目標の必達に向け、お客様の消費動向を捉えながら多様化する消費者ニーズに対応した製品のリニューアル化や販売企画等の各施策の推進に取り組んでまいりました。

また、環境問題への取り組みとして、一昨年の東港工場の太陽光発電設備に続き、新発田工場においてDME燃料ボイラ設備(ジメチルエーテル(DME)は天然ガス・石炭・バイオマス等多様な資源から生産でき、燃焼時の粒子状物質が発生しない、硫黄分・窒素・芳香族等有害物質を含まない、光化学スモッグの原因となる窒素酸化物が少ない、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の発生が少ない等環境にやさしいクリーンエネルギー)を導入し、平成23年2月より運用を開始いたしました。

製品分類別における包装餅につきましては、主力製品の活性化と新商品の市場定着の取り組みの一環として、約30年ぶりのリメイク版として「サトウ~の切り餅~ あ、モチモチモチモチっと」の懐かしいテレビCMを最需要期となる平成22年11~12月に全国放映するとともに、5つのやさしい(環境にやさしい、家計にやさしい、飾り場所を選ばずやさしい、女性にやさしい、飾りやすくやさしい)をコンセプトとした「サトウのやさしい鏡餅」の新発売に加え、消費者の包装餅を使った料理メニューの多様化に対応した「サトウのスライス切りもち」が堅調に推移した結果、当事業年度における包装餅の売上高は136億66百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

また、包装米飯につきましては、市場での低価格化競争が一層激しさを増す中、当社は無菌化包装米飯のパイオニアメーカーとして、味と品質を重視し、当社ブランドに対する消費者からの信頼を確固たるものとするとともに、健全な市場育成に取り組むべく他社とは一線を画した販売活動に取り組んでまいりました。また、商品パッケージ及び当社ホームページサイトでのアレンジレシピ掲載による消費者へのメニュー提案や、サトウ食品「おいしさ重ねて60年」プレゼントキャンペーン及び良質米産地との共同企画等の実施により店頭での購入頻度の活性化促進による拡販に努めた結果、当事業年度における包装米飯の売上高は133億72百万円(前年同期比6.2%増)となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高はその他16百万円(前年同期比6.4%増)を加えた270億55百万円(同6.0%増)となりました。

利益面につきましては、売上高の増加にともない販売促進費及び販売手数料等の増加により販売費及び一般管理費は増加したものの、売上高の拡大にともなう生産量の増加及び生産効率の改善等によるコスト低減によって売上総利益が増加した結果、営業利益は10億94百万円(前年同期比2億14百万円増)、経常利益は11億6百万円(同2億5百万円増)となりました。しかし、東北地方に保管しておりましたたな卸資産(原材料)に被害を受けたことによる「災害による損失」1億87百万円及び「資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額」52百万円を特別損失に計上した結果、当期純利益は4億65百万円(同28百万円減)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

営業活動の結果支出した資金は8億96百万円(前年同期比7億47百万円増)となりました。これは、減価償却費の減少1億49百万円、売上債権の増加13億38百万円、たな卸資産の増加1億38百万円、未収消費税等の減少1億25百万円、未払消費税等の増加2億85百万円及び法人税等の支払額の減少4億28百万円によるものとなっております。

投資活動の結果支出した資金は3億3百万円(前年同期比1億63百万円増)となりました。これは、有形固定資産の売却による収入の減少1億76百万円が主なものとなっております。

財務活動の結果得られた資金は14億96百万円(前年同期比12億29百万円増)となりました。これは、売上債権の増加及びたな卸資産の増加にともなう、運転資金としての短期借入金の純増額10億円及び長期借入れによる収入の増加2億円が主なものとなっております。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は3億18百万円(前年同期比2億97百万円増)となりました。なお、期末残高の増加は当事業年度末日が金融機関の休日であったため、期末日満期支払手形等の決済予定資金によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当事業年度の生産実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当事業年度 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	13,073,006	100.4
包装米飯製品	13,035,987	103.6
その他製品	7,261	122.3
合計	26,116,256	102.0

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 製品仕入実績

当事業年度の製品仕入実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当事業年度 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	13,041	88.6
その他製品	4,981	94.6
合計	18,022	90.2

- (注) 1 金額は、実際仕入金額によっております。  
2 金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 商品仕入実績

該当事項はありません。

(4) 受注実績

受注見込による生産方式をとっておりますので、受注高ならびに受注残高について記載すべき事項はありません。

(5) 販売実績

当事業年度の販売実績を製品分類ごとに示すと、次のとおりであります。

製品分類	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
包装餅製品	13,666,806	105.7
包装米飯製品	13,372,501	106.2
その他製品	16,686	106.4
合計	27,055,994	106.0

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)		当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	
	販売実績(千円)	割合(%)	販売実績(千円)	割合(%)
三菱商事(株)	6,842,123	26.8	7,735,305	28.6
加藤産業(株)	6,604,275	25.9	6,984,576	25.8
伊藤忠商事(株)	4,984,203	19.5	4,972,645	18.4
三井物産(株)	2,776,092	10.9	2,729,482	10.1

2 金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

消費者の食品に対する安心・安全性への関心の高まりや、少子高齢化等の社会構造の変化による、食生活のスタイルは一層多様化・個別化するものと予想されます。

このような状況の中で、季節的変動を極小化すべく包装米飯事業に注力し、かつ、包装餅事業の確固たる基盤を築くべく消費者の皆様に喜ばれる製品づくりを目指し、基礎技術に基づく、他社と差別化できる競争力のある新製品の開発に努めるとともに、経営全般にわたる効率化を推進し業績の拡大に取り組んでまいります。

## 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の概況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成23年7月27日)現在において当社が判断したものであります。

## (1) 業績の季節的変動

当社は、主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)であり、その販売が年末に集中するため、売上高及び営業利益は第3四半期会計期間の割合が高くなる傾向があります。

なお、当事業年度末にいたる当社1年間の売上高・営業費用及び営業利益は、以下のとおりであります。

## 当社の業績

	売上高		営業費用		営業利益又は 営業損失( )
	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)
当事業年度の第1四半期 会計期間	3,246	12.0	3,665	14.1	418
当事業年度の第2四半期 会計期間	5,662	20.9	5,633	21.7	29
当事業年度の第3四半期 会計期間	11,767	43.5	10,472	40.3	1,294
当事業年度の第4四半期 会計期間	6,379	23.6	6,190	23.8	188
合計	27,055	100.0	25,961	100.0	1,094

## (2) 製品の安全性について

当社は、製品の品質及び安全・安心に対する取り組みを経営の最重要課題のひとつと考え取組んでおり、ISO22000:2005を運用するとともに、各製造工程における社内基準検査、製品1個々々検品体制の確立、トレーサビリティシステムを取り入れた包装米飯の開発、自社分析機器等の導入及び品質管理体制の強化に努めております。

しかし、食品業界における鳥インフルエンザやノロウイルス発生及び野菜の残留農薬等の食品に対する問題が発生しており、当社グループの想定及び会社としての対応を超えた事態が発生した場合、経営成績に影響を与える可能性があります。

## (3) 原料米の価格変動について

当社は、包装餅や包装米飯の素材となる原料米(もち米、うるち米)を仕入れておりますが、当社の仕入価格は国内の市場動向(作況等)の影響を受けるため、過去の米不作時の経験を生かし仕入価格の変動を極力抑えるよう適切な情報収集及び在庫管理などの対応を行っております。

しかし、原料米は全て国内産米使用であり、当社が予想した範囲を上回るような原料米の市場動向となった場合、経営成績に影響を与える可能性があります。

また、包装資材などの原材料は、原油価格及び為替等の変動によって調達価格は変動し、当社の経営成績に影響を与える可能性があります。

## (4) 訴訟事件等について

当社が製造・販売する切込み入り切り餅について、越後製菓株式会社(以下「原告」という)から当社に対し、原告所有の特許権を侵害するものとして、平成21年3月11日付で東京地方裁判所に当該製品の製造・販売等差止め請求及び損害賠償を求める訴訟提起がなされましたが、平成22年11月30日付で同裁判所より原告の請求をいずれも棄却し、訴訟費用は原告の負担とする旨の判決が下されております。

これに対し、平成22年12月13日付で原告から同判決を不服とした控訴の提起があったため、当社は控訴審においても、第一審に引き続き当社の正当性を主張してまいりましたが、平成23年5月9日に知財高等裁判所で控訴審の弁論終結が宣言され、平成23年9月7日に判決が言い渡される予定であります。

当社は控訴審の判決におきましても、第一審と同様に当社の正当性が認められるものと確信しております。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社の研究開発活動は、生産本部開発部開発課を中心に行っております。

当事業年度の研究開発活動は、包装餅及び包装米飯等の新製品開発や、基礎研究、新規技術開発、新規生産ラインの開発、既存製品の品質・生産効率の向上を目的とした技術開発、製品の安全性を確保するための品質管理を基本として活動いたしました。

活動の成果といたしましては、包装餅では、鏡餅において新しい形態及びコンセプトを有した「やさしい鏡餅」の新製品化や、スライス切もちのリニューアル化を実施いたしました。また、既存生産ラインの整備・改修・改良をすすめ、収益改善に向けた生産効率の向上及びロスの削減並びに品質の維持向上に努めてまいりました。

包装米飯では、優良新品種米の新製品化、低たんぱく米飯の消費者庁の特別用途食品「病者用(許可基準型)低たんぱく質食品」としての認可を取得し、更なる低たんぱく化を目的とした「サトウの低たんぱくごはん 1/5、1/25、1/25かめに一膳」の開発及びリニューアルを実施いたしました。また、既存生産ラインの整備・改修・改良及び新規技術の導入による生産効率の向上、生産ロスの削減をすすめ、収益改善に努めてまいりました。

基礎研究といたしまして、微生物の挙動や殺菌及び制御に係わる研究、食品の安全性に係わる研究、各種新形質米の利用研究、米飯及び餅の食味や物性解析に係わる研究等を実施いたしました。また、応用研究として米飯及び餅の新しいメニュー開発や調理方法の開発を実施いたしました。

なお、当事業年度における研究開発費の金額は1億31百万円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成23年7月27日)現在において当社が判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たり、必要と思われる見積りは、合理的な基準に基づいて実施しております。

なお、詳細につきましては、「第5 [ 経理の状況 ] 2 [ 財務諸表等 ] (1) [ 財務諸表 ] 重要な会計方針」に記載しております。

### (2) 財政状態

#### 資産・負債及び資本の分析

##### (流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は158億55百万円となり、前年同期に比較し32億47百万円増加いたしました。

これは、売上高の増加にともない商品及び製品が減少(前年同期比5億98百万円減)しておりますが、当事業年度末日が金融機関の休日であったため期末日満期支払手形等の決済予定資金としての現金及び預金の増加(同3億円増)及び売上高増加にともなう売掛金の増加(同14億42百万円)並びに原料米の仕入調整による原材料及び貯蔵品の増加(同20億18百万円増)が主な要因となっております。

##### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は96億8百万円となり、前年同期に比較し7億42百万円減少いたしました。

これは、減価償却の実施による有形固定資産の減少(前年同期比6億19百万円減)、投資有価証券の時価評価額の減少にともなう投資その他の資産の減少(同1億15百万円減)が主な要因となっております。

##### (流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は135億32百万円となり、前年同期に比較し27億47百万円増加いたしました。

これは、売掛金及びたな卸資産の増加にともなう運転資金としての短期借入金の増加(前年同期比24億円増)、売上高の増加にともなう販売促進費等未払金の増加(同1億75百万円増)及び未払法人税等の

増加(同99百万円増)が主な要因となっております。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は24億91百万円となり、前年同期に比較し5億59百万円減少いたしました。

これは、長期借入金の減少(前年同期比5億49百万円減)が主な要因となっております。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は94億39百万円となり、前年同期に比較し3億16百万円増加いたしました。

これは、当期純利益計上による利益剰余金の増加(前年同期比3億69百万円増)が主な要因となっております。

キャッシュ・フローの分析

当社のキャッシュ・フローの状況は、営業活動としての売上債権の増加及び原料米の仕入調整によるたな卸資産の増加や、投資活動としての有形固定資産の取得による支出に必要な資金を、金融機関からの短期借入れ及び長期借入れにより資金調達した結果、当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は3億18百万円となりました。なお、前事業年度末と比較し2億97百万円の増加は、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、期末日満期支払手形等の決済予定資金として増加しております。

また、各キャッシュ・フローの詳細につきましては、1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フローの状況に記載のとおりであります。

### (3) 経営成績

(売上高)

売上高は、前事業年度に比較し15億20百万円増加し270億55百万円(前年同期比6.0%増)となりました。

この増加は、前事業年度に比較し包装餅製品が7億39百万円増加したこと及び包装米飯製品が7億79百万円増加したことによるものとなっております。

なお、売上高の詳細につきましては、1 [業績等の概要] (1) 当期の業績の概況に記載のとおりであります。

(売上原価・売上総利益)

売上原価は、前事業年度に比較し5億59百万円増加し176億58百万円となりましたが、売上高の増加にともなう生産量の増加及び生産効率の改善等によるコスト低減により、売上原価率は前事業年度に比較し1.7ポイント減少し65.3%となった結果、売上総利益は前事業年度に比較し9億61百万円増加し93億97百万円となりました。

(販売費及び一般管理費・営業利益)

販売費及び一般管理費は、前事業年度に比較し7億46百万円増加し83億3百万円となりましたが、売上総利益が増加した結果、営業利益は前事業年度に比較し2億14百万円増加し10億94百万円となりました。

(営業外損益・経常利益)

営業外収益は、前事業年度に比較し7百万円増加し3億37百万円となり、営業外費用は、前事業年度に比較し16百万円増加し3億24百万円となりました。なお、経常利益は営業利益が増加した結果、前事業年度に比較し2億5百万円増加し11億6百万円となりました。

(特別損益・税引前当期純利益)

特別利益は、前事業年度に比較し22百万円減少し22百万円となりました。特別損失は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方に保管しておりましたたな卸資産(原材料)に被害を受けたことによる「災害による損失」1億87百万円及び資産除去債務に関する会計基準等が適用されたこととともなう「資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額」52百万円を計上したことから、前事業年度に比較し2億8百万円増加し2億49百万円となりました。その結果、税引前当期純利益は前事業年度に比較し25百万円減少し8億79百万円となりました。

(法人税等・当期純利益)

法人税等合計は、前事業年度に比較し2百万円増加し4億13百万円となりました。これは、税効果会計適用後の法人税等の負担率が前事業年度に比較し、交際費等永久に損金にされない項目及び評価性引当額がそれぞれ0.8ポイント増加したことによるものとなっております。

当期純利益は前事業年度に比較し28百万円減少し4億65百万円となり、1株当たり当期純利益金額は、前事業年度に比較し5円83銭減少し96円91銭となりました。

(4) 経営者の問題認識と今後の方針について

今後の見通しにつきましては、株式市場や為替市場の変動及び原油価格の高止まりに加え、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災による国内経済への影響や電力不足の長期化等、先行き不透明な状況で推移するものと予測されます。

当社を取り巻く市場環境も、価格競争の激化、原油価格の高止まりによる製造コストの上昇及び電力の使用量規制による資材・部品の不足懸念等、引き続き厳しい経営環境になるものと思われま

す。このような状況の中、包装餅及び包装米飯のトップシェア企業としての安全・安心な製品を安定的にお客様へ供給するべく、当社一丸となって対応するとともに、更なる商品力及びブランド力の強化を最重要課題として取り組んでまいります。

また、商品別・業態別の販売促進を強化するとともに、包装餅及び包装米飯の需要創造を目指したキャンペーンやプロモーション活動等による製品販売の拡大に努め、経費の効果的な使用、省エネルギーの推進等、経営全般の効率化を図り業績の向上に取り組んでまいります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当事業年度における設備投資の総額は3億14百万円で、その主な内容は新発田工場のDME燃料ボイラ設備95百万円、包装餅製造設備及び包装米飯製造設備の更新・改修等によるものとなっております。

#### 2 【主要な設備の状況】

平成23年4月30日現在

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物及び 構築物	機械及び装 置・運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (新潟市東区)	管理業務施設	53,506	15,693	68,760 (5,881) <1,076>	11,394	12,373	161,728	52 [3]
北海道工場 (北海道岩見沢市)	包装餅及び包装米飯 製造設備	672,275	516,233	195,361 (29,670)	9,649	5,385	1,398,905	58 [105]
佐賀工場 (佐賀県杵島郡)	包装餅製造設備	285,040	188,030	60,915 (33,509)	594	5,325	539,907	40 [182]
新発田工場 (新潟県新発田市)	包装餅及び包装米飯 製造設備	293,711	263,813	80,042 (29,273)	730	6,513	644,811	42 [201]
東港工場・東港配送センター (新潟県北蒲原郡)	包装米飯製造設備等	992,277	1,463,238	650,982 (53,344)	1,378	12,242	3,120,119	121 [98]
東京支店 (東京都大田区)	販売業務施設	1,949		( )	335	600	2,884	38 [ ]
大阪支店 (大阪府吹田市)	販売業務施設	89		( )	77	59	226	10 [ ]
名古屋支店 (名古屋市中区)	販売業務施設	4		( )	26	15	45	4 [ ]
その他6営業所 (仙台市若林区他)	販売業務施設			( )	129		129	20 [ ]
その他 (新潟市東区他)	社宅等	52,869		765,425 (99,482) <5,163>		220	818,516	
	賃貸用設備	177,417 [177,417]		1,825,965 (31,679) <28,221> {23,099} [1,825,965]			2,003,383	
合計		2,529,141 [177,417]	2,447,009	3,647,454 (282,839) <34,460> {23,099} [1,825,965]	24,315	42,736	8,690,658	385 [589]

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定であります。  
建物及び構築物、土地の[ ]書きは、賃貸中のものを内数で表示しており、貸借対照表上、投資その他の資産「投資不動産」に計上しております。  
土地面積の [ ]は賃貸中のものであり、内数で表示してあります。  
土地面積の { }は賃借中のものであり、外数で表示してあります。  
従業員数の [ ]は臨時従業員等の年間平均雇用人数を外数で表示してあります。  
2 金額には消費税等を含んでおりません。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

設備投資につきましては、今後の生産計画、販売計画及び利益計画などを総合的に勘案して策定しております。

平成23年4月30日現在における重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,300,000
計	16,300,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年7月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,075,500	5,075,500	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	5,075,500	5,075,500		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年4月11日(注)	1,000,000	5,075,500	340,000	543,775	506,000	506,000

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式)

発行価格	900円
引受価額	846円
発行価額	680円
資本組入額	340円

## (6) 【所有者別状況】

平成23年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		10	3	51	3		614	681	
所有株式数(単元)		2,700	8	12,370	57		35,604	50,739	1,600
所有株式数の割合(%)		5.32	0.01	24.37	0.11		70.17	100.00	

(注) 自己株式270,899株は、「個人その他」に2,708単元及び「単元未満株式の状況」に99株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
住吉食品有限会社	新潟市北区太夫浜字向山3308-4	516	10.17
佐藤功	新潟市東区	465	9.16
佐藤食品工業社員持株会	新潟市東区宝町13-5	342	6.75
サトウ食品取引先持株会	新潟市東区宝町13-5	247	4.86
佐藤豊美	新潟市東区	235	4.64
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2丁目5-2	224	4.41
佐藤元	新潟市東区	177	3.49
一正蒲鉾株式会社	新潟市東区津島屋7丁目77	158	3.11
藤井順一	新潟県西蒲原郡弥彦村	151	2.98
佐藤浩一	新潟市西区	144	2.85
計		2,662	52.46

(注) 1 前事業年度末において主要株主であった佐藤功は、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。  
 2 佐藤食品工業株が270千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合5.33%)所有しておりますが、自己株式のため表中に記載しておりません。

## (8) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成23年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 270,800		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,803,100	48,031	同上
単元未満株式	普通株式 1,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,075,500		
総株主の議決権		48,031	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式99株を含めております。

## 【自己株式等】

平成23年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 佐藤食品工業株式会社	新潟市東区宝町13番5号	270,800		270,800	5.33
計		270,800		270,800	5.33

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しておりませんので、該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	270,899		270,899	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成23年7月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、今後の事業展開及び経営強化のため内部留保の充実を図りつつ、安定的な配当を維持継続することを基本とし、企業価値の増大で株主各位に伝えることを念頭に置き、総合的に決定することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本としておりますが、当社主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)でありその販売が年末に集中するため、売上高及び営業利益は第3四半期会計期間の割合が高く、第2四半期累計期間は赤字となるため、これまでは期末配当のみ実施し中間配当は行っておりません。

これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、平成23年4月に東京証券取引所市場第二部への株式上場10周年を迎えることができましたことから、普通配当10円に記念配当5円を加えた、1株当たり15円の配当とさせていただきます。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成23年7月27日定時株主総会決議	72,069	15

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成19年4月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年4月
最高(円)	1,440	1,390	1,491	1,740	2,000
最低(円)	1,150	1,160	982	1,200	1,255

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年11月	12月	平成23年1月	2月	3月	4月
最高(円)	1,710	1,710	1,631	1,615	2,000	1,749
最低(円)	1,414	1,565	1,500	1,510	1,560	1,605

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		佐藤 功	昭和13年1月13日生	昭和28年4月 昭和31年4月 昭和36年4月 昭和41年7月 昭和59年4月 平成10年2月 平成15年10月  平成17年5月  平成22年7月	正起商店入社 当社入社 当社監査役就任 当社専務取締役就任 当社代表取締役社長就任 ㈱パワーズフジミ取締役就任 新潟国際コンベンションホテル ㈱(現 ホテル朱鷺メッセ㈱)代 表取締役就任(現任) ㈱オリエントプラン取締役副社 長就任(現任) 当社代表取締役会長就任(現任)	(注)4	465
代表取締役 社長		佐藤 元	昭和40年2月24日生	昭和62年4月 平成2年4月 平成4年7月 平成5年3月 平成7年6月 平成10年2月  平成11年6月  平成14年6月  平成20年1月 平成22年7月	亀田製菓㈱入社 当社入社 住吉食品(有)取締役就任(現任) 当社経営企画室長 当社取締役経営企画室長就任 ㈱パワーズフジミ代表取締役社 長就任 有)フジミプランニング取締役就 任 当社常務取締役経営企画室長就 任 当社常務取締役営業本部長就任 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)4	177
常務取締役	管理本部長	笠原 康司	昭和23年4月26日生	昭和46年4月 昭和53年4月 昭和58年3月 平成5年6月  平成14年3月  平成17年5月  平成19年3月 平成19年7月  平成20年6月	㈱新潟コーザック入社 当社入社 当社本社統轄部長 当社取締役管理本部長兼総理部 長就任 当社取締役管理本部長兼総務部 長就任 ㈱オリエントプラン監査役就任 (現任) 当社取締役管理本部長就任 当社常務取締役管理本部長就任 (現任) ホテル朱鷺メッセ㈱監査役就任 (現任)	(注)4	20
取締役	営業本部長	中谷 徹	昭和31年8月17日生	昭和54年3月 平成7年3月 平成11年7月  平成16年3月  平成22年7月	当社入社 当社関西統轄部長就任 当社取締役営業本部副本部長西 日本担当就任 当社取締役営業本部副本部長就 任 当社取締役営業本部長就任(現 任)	(注)4	12

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	原材料部長	加藤 仁	昭和42年3月15日生	昭和60年4月 平成7年11月 平成10年7月 平成11年6月 平成11年7月 平成14年8月	新潟県警察採用 当社入社 当社監査役就任 (有)フジミプランニング取締役社長就任(平成21年5月退任) 当社取締役原材料部長就任(現任) 住吉食品(有)取締役就任(現任)	(注)4	48
取締役	経営企画部長	佐藤 浩一	昭和46年8月31日生	平成10年2月 平成13年9月 平成21年5月 平成21年5月 平成22年7月	(株)パワーズフジミ入社 同社取締役店舗運営部長就任 当社入社経営企画部長就任 住吉食品(有)取締役就任(現任) 当社取締役経営企画部長就任(現任)	(注)4	144
常勤監査役		小瀬 聡	昭和28年12月3日生	昭和48年6月 平成5年3月 平成14年3月 平成17年7月	当社入社 当社総務部長 当社監査室長 当社監査役(常勤)就任(現任)	(注)6	11
監査役		佐野 榮偉	昭和11年1月19日生	昭和30年4月 平成6年7月 平成7年9月 平成13年7月	東京国税局 入局 新潟税務署 署長 税理士事務所開業(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5	1
監査役		五十嵐 英雄	昭和13年7月29日生	昭和39年6月 平成5年2月 平成12年6月 平成17年7月	(株)三栄(現 新潟国分(株))入社 新潟国分(株)常務取締役就任 新潟ヨーク販売(株)専務取締役就任 当社監査役就任(現任)	(注)6	1
計							881

- (注) 1 監査役佐野榮偉及び監査役五十嵐英雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
2 代表取締役会長佐藤功は、代表取締役社長佐藤元の実父、取締役加藤仁の義父であります。  
3 当社は法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。  
補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
八木原 洋司	昭和17年10月12日生	昭和36年4月 平成11年7月 平成13年9月	関東信越局国税局 入局 三条税務署 署長 税理士事務所 開業(現任)	(注)	

(注)補欠監査役の任期は、就任した時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

- 4 平成23年7月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 5 平成20年7月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 平成21年7月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 7 当社では、取締役会の意思決定・業務執行の監督と各事業部の業務執行機能を明確にし、経営効率の向上及び意思決定の迅速化を図るために執行役員制度を導入しております。  
執行役員は5名で、生産本部長兼生産管理部長 上村栄一、管理本部副本部長兼経理部長 近藤充、営業本部副本部長兼東日本営業部長 玉澤安亮、営業本部副本部長兼広域流通部長 頼田武幸、生産本部副本部長兼開発部長 赤塚昌一で構成されております。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、日本の食文化を大切に、「食」を通じて社会に貢献する企業を目指すことを基本理念とするとともに、株主や消費者の皆様から信頼される安全・安心な「食」の提供者として、また各ステークホルダーに対する企業価値向上を図ることを経営の基本方針としております。

そのためには、経営の効率化、経営体制の強化、経営責任の明確化を推進し、絶えず実効性の面から経営管理体制や組織と仕組みの見直しと改善に努めてまいります。

また、当社は現状規模において競争力のある健全な企業経営を行っていくためには、現在の監査役設置会社であり、かつ会計監査人設置会社の機関設計が当社にとって最も効率的であると考えており、それを前提に迅速かつ正確な情報開示に努め、経営に対する透明性の向上、コンプライアンス、監視・チェック機能の強化、内部統制及びリスク管理の徹底を図り、コーポレートガバナンスの充実に努めていきたいと考えております。

#### 企業統治の体制

##### イ 企業統治の体制の概要

当社は前記に示すとおり、監査役制度を採用しており、取締役6名、監査役3名となっております。また、監査役のうち2名が社外監査役であり、社外取締役は選任しておりません。社外監査役佐野榮偉及び五十嵐英雄は夫々当社株式1,000株を保有しており、それ以外の社外監査役との人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はなく、株式会社東京証券取引所が定める独立役員としての独立性要件を満たしております。

当社の会社機関の概要は次のとおりであります。

##### < 取締役会 >

取締役会は、当社の規模と機動性を勘案し、現在取締役6名の体制をとっております。定例取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。

##### < 常務会及び部課長会議 >

経営の基本方針及び経営戦略に関わる重要事項の審議・決定については事前に役付取締役を中心とした常務会を開催し、意思決定を機動的に行っております。また、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するよう経営トップと各部署の責任者により構成される部課長会議を毎週開催し、事業計画及び重要な業務執行に関する審議・連絡及び調整を行っております。

##### < 監査役及び監査役会 >

監査役会は現在3名(常勤監査役1名、社外監査役2名)で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査方針及び業務分担に基づき、取締役の職務執行の適正性について監査しております。社外監査役2名は、専門性があり、当社の経営をその専門的知識や経験から監査・監督できる人材を選任しております。なお、監査役は組織的かつ効率的な監査体制が実現できるよう代表取締役社長及び当社の会計監査人と定期的に意見交換を行っております。また、常勤監査役は取締役会の他、重要な意思決定の過程及び職務執行状況を把握するため、部課長会議等重要な会議に出席しております。

##### < 会計監査人 >

会計監査人につきましては、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法の規定に基づく、公正不偏な立場から厳格な監査を受けております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はなく、同監査法人は法令に基づき業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

#### < 監査室 >

内部監査部門である代表取締役社長直属の監査室は、各部門・工場等の監査を定期的を実施し、業務遂行が各種法令や社内規程及び事業計画に準拠して実施されているか、効果的・効率的に行われているか等についてチェック・指導する体制をとっております。

代表取締役社長、監査役会、会計監査人及び監査室は、必要の都度相互に情報交換・意見交換を行う等の連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

#### □ 企業統治の体制を採用する理由

現在当社の取締役会は必要最小限の6名で、業務分掌による権限と責任の委譲が明確になっており、企業経営に必要なスピーディで正確な意思決定及び業務執行は十分実行できていると考えております。また、社外からの経営監視機能という観点では、社外監査役を2名選任しており、監査役を通じて企業経営の客観性及び中立性は確保されていると考えております。

#### (内部統制システムに関する基本的な考え方)

当社は、会社法の施行にともない、代表取締役社長により具体的に実行されるべき当社の「内部統制システムの構築において、遵守すべき基本方針」を次のとおり定めるものである。また、当社では「誠実と責任とを以って日々努力を重ね、より品質を高めて消費者の信頼に応えよう」という社是を経営理念とし、内部統制システムについては、企業としての社会的信頼に応え、企業理念・法令順守の基本姿勢を明確にし、社会的責任を常に意識した健全な事業活動の推進に取り組み、食品メーカーとして信頼していただける企業となるよう努めることとする。

#### < 取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制 >

取締役及び使用人のコンプライアンスの維持は「コンプライアンス規程」に基づき各取締役が責任役員として自己の担当部署について責任を持って法令・定款の遵守の徹底を図り、万一コンプライアンスに関する重要な事態が発生した場合には、直ちにその内容・対処案を責任役員から取締役会、監査役に報告するものとする。

監査役は当社のコンプライアンス体制に問題があると認められるときは、意見を述べるとともに、必要に応じて運用状況の検証を行い改善策の策定を求めるとする。

#### < 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制 >

取締役の職務執行に係る情報・文書の取扱いは、当社社内規程に従い適切に保存及び管理(廃棄を含む)を行うとともに、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行うこととする。

#### < 取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制 >

当社は、取締役会を毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて随時開催するものとし、重要事項の決定並びに取締役の職務執行状況の監督について業務報告を通じ定期的に行い、経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については事前に役付取締役を中心とした常務会を開催し、意思決定を機動的に行うこととする。

また、取締役会の決定に基づく取締役の職務執行を効率的に実現するため、経営トップと各部署の責任者により構成される部課長会議を毎週開催し、事業計画等が当初の予定通りに進捗しているか審議・連絡及び調整を行うこととする。

#### < 損失の危険の管理に関する規程その他の体制 >

当社は、「リスク管理規程」により、リスクの予防・リスクの発生に備えた事前準備や処理体制の確立を行う。そのうえ代表取締役社長に直属する部署として、監査室を設置し、定期的に「内部監査規程」による監査を実施するとともに、監査実施項目・監査方法や「リスク管理規程」等の見直しも定期的実施・検証し、必要があれば改正を行うものとする。

監査室の監査により法令・定款違反その他の事由に基づき損失の危険があると推測される場合またはそのような業務執行行為が発見された場合には、その内容及びそれらがもたらす、またはもたらした損失の程度等について「リスク管理規程」に基づき、直ちに責任役員から取締役会、監査役に報告し、そのリスクの程度に応じた対応策を策定するとともに直ちにリスク発生に対処する体制を構築することとする。

また、監査室の活動を円滑にするため、定期的に各規程等の整備を各部署に求め、監査室の監査方針・「リスク管理規程」等各規定及び職務権限と責任の所在について全使用人に周知徹底する。

<当社及び関係会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制>

関係会社に関する業務の適正を確保するための部署である管理本部において、社内規程に従い関係会社の経営管理を行うとともに、その経営内容や重要案件について定期的に報告・協議を行うこととする。

監査室は原則として毎年1回以上、定期または臨時に実地監査を行い、関係会社に損失の危険(おそれのある場合を含む)を発見した場合には、直ちにその内容及び当社に対する影響等について、当社の取締役会及び担当部署に報告するものとする。

<監査室の職務を補助すべき使用人に関する事項>

監査役の職務を補助すべき者として、当社の使用人から監査役補助者を任命する。

当該使用人は、監査役の指揮命令下で職務を遂行しその評価については監査役が行いその補助者の任命・解任・人事異動・賃金等の改定については、監査役会の同意を必要とすることとし、取締役からの独立性を確保するものとする。

<監査役への報告体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制>

取締役及び使用人は、監査室の指示に従い、報告すべき事項は要求された期限を厳守し、報告事項、情報、資料等速やかに報告・提示するなど、監査役の要請する事項には全面的に協力する体制を徹底する。また会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実及び法令違反その他のコンプライアンス上の問題を発見したときは、「社内通報規程」に基づき直ちに監査役に報告するものとする。

常勤監査役は取締役会の他、重要な意思決定の過程及び職務執行状況を把握するため、部課長会議など重要な会議に出席するとともに、稟議書その他職務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求めることとする。

なお、監査役は組織的かつ効率的な監査体制が実現できるよう代表取締役社長及び当社の会計監査人と定期的に意見交換を行うなど連携を図っていくものとする。

<財務報告の適正及び信頼性を確保するための体制>

当社は、財務報告の信頼性と適正性を確保するため、金融商品取引法及び関係法令に基づく内部統制報告制度を有効かつ適切に運用するとともに、継続的に運用評価・有効性の確認を行い、必要があれば改善を行うものとする。

<反社会的勢力排除に向けた体制>

当社は、「コンプライアンス規程」において、社会秩序や会社の健全な経営に脅威を与える反社会的勢力・団体に対しては、毅然とした態度で行動することを明記し、その堅持に努めており、名目の如何を問わず一切の関係の遮断を全社統一した対応の基本方針として行動することとする。

## 八 内部統制システム(リスク管理体制を含む)の整備の状況

当社は模式図のとおり、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人、監査室等を中心とした内部統制システムの整備を図っており、監査に係る各種規程等に基づく、監査役と監査室及び会計監査人の連携強化等による監査役監査の機能強化に重点を置いております。

また、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツからは監査の都度コーポレート・ガバナンス、リスク管理・内部統制に係る評価及び改善するための指導を受けております。

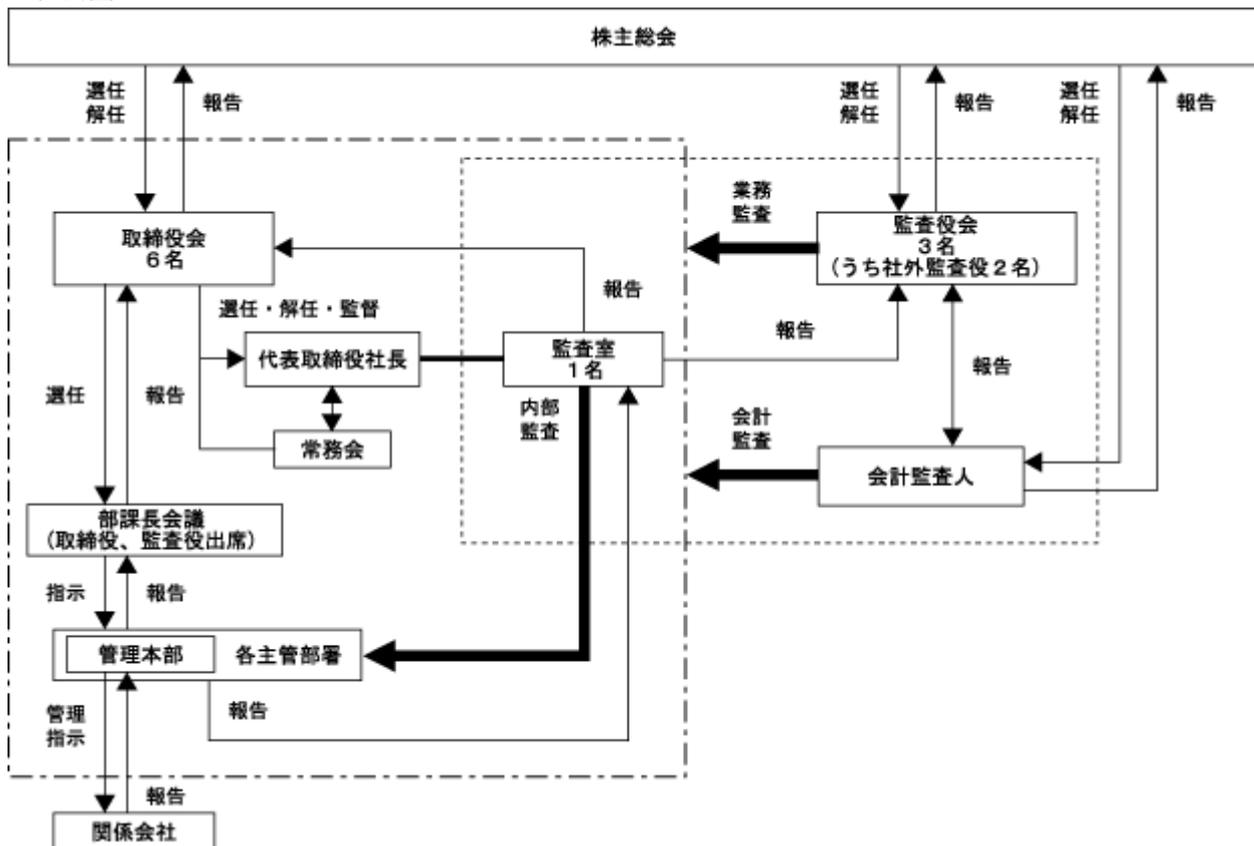
なお、「内部統制システムの構築に関する基本方針」で示した“コンプライアンス体制”、“情報管理体制”及び“リスク管理体制”“関係会社管理体制”の構築に向けた基本規程については整備を完了し、適切な運用がなされております。

## 二 反社会的勢力排除に向けた整備の状況

当社は、コンプライアンス規程において、反社会的勢力・団体に対する対応について明記しており、その排除については全ての役員・従業員が守るべき責務として認識しております。さらに、リスク管理規程において、反社会的勢力・団体からの不当要求を経営危機と捉え、外部関係機関と連携し、組織全体として対応する旨規程しております。また、反社会勢力・団体に対しては、管理本部を統括部署とし、全社統一して対応することとしており、予防策としては、警察等が主催する研修会等に積極的に参加し情報収集と対応に努めております。

会社の機関と内部統制システムの関係を示すと、以下の模式図のとおりであります。

模式図



#### 内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

内部監査は、代表取締役社長に直属する部署としての監査室(兼任1名)により、全ての部署を毎年1回以上定期または臨時に会計・財務及びその他の業務活動の妥当性、有効性の監査を実施しております。

監査役会は現在3名(常勤監査役1名、社外監査役2名)で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査方針及び業務分担に基づき、取締役の職務執行の適法性について監査しております。また、監査室(内部監査)と同一の部屋で業務を行い、内部監査の年間監査計画、年度重点監査項目、監査実施状況及び監査結果等の情報交換が日々行える環境となっており、取締役会・部課長会議及び内部監査報告会全てに出席し、業務執行を充分監視できる体制となっております。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツと監査契約(公認会計士法第2条第1項に基づく監査証明業務)を締結し、期中及び期末に監査を実施しております。

当期の会計監査業務を執行した公認会計士は、指定有限責任社員・業務執行社員の白井正氏及び神代勲氏の2名であり、補助者は公認会計士1名、会計士補等5名及びその他1名の7名であります。

相互連携については、監査役は会計監査人へ年間監査計画を提示し、年度重点監査項目、監査実施状況、監査結果の意見及び情報交換等を実施しております。また、会計監査人の監査にあたって、監査役及び内部統制室長が会計監査人の往査に立会い、監査講評会に出席し報告を受ける等、監査役、監査室長、内部統制室長、会計監査人が連携を図り監査の実効性の向上に努めております。

なお、常勤監査役小瀬聡は、当社の経理部門及び管理部門に長年在籍し、平成14年から平成17年まで内部監査業務の責任者として従事しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

なお、社外監査役佐野榮偉は、税理士としての専門的な知識や幅広く豊富な経験を活かし、取締役の業務執行に対する監査が行えるものと考えております。社外監査役五十嵐英雄は、食品卸会社の常務取締役及び専務取締役等の要職を歴任しており、営業及び財務の幅広い知識や経験を活かし、取締役の業務執行に対する監査が行えるものと考えております。

役員報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	役員賞与 引当金	役員退職慰労 引当金	役員 退職慰労金	
取締役	160,283	137,700	7,800	3,383	11,400	7
監査役 (社外監査役除く。)	12,800	11,400	1,000	400		1
社外役員	5,840	4,800	240	800		2

ロ 役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員報酬については、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額を決定しております。各取締役及び監査役の報酬額は、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮して、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 17銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 500,873千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)菱食	102,480	229,249	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
一正蒲鉾(株)	258,400	131,525	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
加藤産業(株)	36,336	53,086	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)第四銀行	78,126	24,844	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
イズミヤ(株)	20,000	9,940	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)北越銀行	61,916	9,473	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,720	5,295	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
王子製紙(株)	7,000	3,108	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)いなげや	2,262	2,169	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三井住友フィナンシャル・グループ	316	985	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有

(注) を付した銘柄は貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、上位10銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)菱食	102,812	176,324	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
一正蒲鉾(株)	258,400	116,280	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
加藤産業(株)	36,336	49,489	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)第四銀行	78,126	19,844	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)北越銀行	61,916	10,773	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
イズミヤ(株)	20,000	7,020	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,720	4,148	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
王子製紙(株)	7,000	2,541	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)いなげや	2,266	1,944	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有
(株)三井住友フィナンシャル・グループ	316	788	円滑な取引関係を維持するため、取得後継続保有

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

純投資目的である株式は保有しておりません。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

**取締役の選任の決議要件**

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

**株主総会の特別決議要件**

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

**株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項及びその理由**

当社は、自己の株式取得について、経済情勢の変化に機動的に対応した効率的な経営の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

**中間配当**

当社は、株主への機動的な利益還元を目的として、取締役会の決議によって、毎年10月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

**(2) 【監査報酬の内容等】**

**【監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
20,000		20,000	

**【その他重要な報酬の内容】**

該当事項はありません。

**【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】**

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

**【監査報酬の決定方針】**

当社の事業規模、業務の特性、監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得たうえで決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年5月1日から平成22年4月30日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年5月1日から平成23年4月30日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(平成21年5月1日から平成22年4月30日まで)及び当事業年度(平成22年5月1日から平成23年4月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入、監査法人及び各種団体の主催する研修への参加及び専門誌等の購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年4月30日)	当事業年度 (平成23年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,779,649	2,079,716
受取手形	14,578	13,909
売掛金	4,100,378	5,542,813
商品及び製品	1,597,728	999,216
仕掛品	330,292	322,934
原材料及び貯蔵品	4,507,195	6,526,063
前払費用	33,334	29,317
繰延税金資産	155,556	170,713
その他	93,548	176,165
貸倒引当金	3,800	5,300
流動資産合計	12,608,462	15,855,551
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,371,180	7,413,849
減価償却累計額	5,043,117	5,215,074
建物（純額）	2,328,062	2,198,774
構築物	808,440	836,965
減価償却累計額	661,737	684,016
構築物（純額）	146,702	152,949
機械及び装置	16,637,740	16,779,538
減価償却累計額	13,738,497	14,348,419
機械及び装置（純額）	2,899,242	2,431,118
車両運搬具	146,445	151,814
減価償却累計額	127,723	135,923
車両運搬具（純額）	18,722	15,890
工具、器具及び備品	782,500	782,033
減価償却累計額	731,427	741,744
工具、器具及び備品（純額）	51,073	40,288
土地	1,821,489	1,821,489
リース資産	71,147	58,988
減価償却累計額	31,667	34,672
リース資産（純額）	39,479	24,315
建設仮勘定	1,629	2,447
有形固定資産合計	7,306,403	6,687,274
無形固定資産		
借地権	243	243
ソフトウェア	15,016	11,616
リース資産	10,166	6,026
電話加入権	8,887	8,887
無形固定資産合計	34,314	26,773

	前事業年度 (平成22年4月30日)	当事業年度 (平成23年4月30日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	581,398	500,873
出資金	6,600	6,600
長期前払費用	4,716	3,681
繰延税金資産	136,483	146,089
投資不動産	2,568,381	2,584,943
減価償却累計額	553,106	581,559
投資不動産(純額)	<sup>1</sup> 2,015,275	<sup>1</sup> 2,003,383
会員権	34,635	34,635
その他	<sup>1</sup> 255,875	<sup>1</sup> 224,119
貸倒引当金	25,010	25,270
投資その他の資産合計	3,009,973	2,894,112
固定資産合計	10,350,691	9,608,160
資産合計	22,959,153	25,463,711
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	<sup>1</sup> 857,392	<sup>3</sup> 760,934
買掛金	322,469	408,295
短期借入金	<sup>1</sup> 7,050,000	<sup>1</sup> 9,450,000
1年内返済予定の長期借入金	<sup>1</sup> 847,700	<sup>1</sup> 798,960
リース債務	19,814	13,937
未払金	972,569	1,148,527
未払費用	252,779	288,095
未払法人税等	138,000	237,000
未払消費税等	-	41,753
預り金	34,359	65,558
前受収益	13,323	13,875
賞与引当金	258,406	265,214
役員賞与引当金	9,440	9,040
資産除去債務	-	458
設備関係支払手形	9,019	<sup>3</sup> 31,145
流動負債合計	10,785,274	13,532,797
<b>固定負債</b>		
長期借入金	<sup>1</sup> 2,291,320	<sup>1</sup> 1,742,260
リース債務	31,299	17,361
長期未払金	12,419	8,784
退職給付引当金	500,797	476,238
役員退職慰労引当金	88,537	70,320
資産除去債務	-	57,680
受入敷金保証金	127,020	119,074
固定負債合計	3,051,394	2,491,719
負債合計	13,836,669	16,024,517

	前事業年度 (平成22年4月30日)	当事業年度 (平成23年4月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金		
資本準備金	506,000	506,000
資本剰余金合計	506,000	506,000
利益剰余金		
利益準備金	135,943	135,943
その他利益剰余金		
特別償却準備金	31,290	26,820
別途積立金	7,550,000	7,950,000
繰越利益剰余金	517,432	491,410
利益剰余金合計	8,234,666	8,604,173
自己株式	305,467	305,467
株主資本合計	8,978,973	9,348,480
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	143,511	90,713
評価・換算差額等合計	143,511	90,713
純資産合計	9,122,484	9,439,194
負債純資産合計	22,959,153	25,463,711

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
売上高	25,535,587	27,055,994
売上原価		
製品期首たな卸高	1,508,837	1,597,728
当期製品製造原価	17,193,092	17,072,081
当期製品仕入高	19,989	18,022
合計	18,721,919	18,687,833
他勘定振替高	<sub>1</sub> 25,135	<sub>1</sub> 30,200
製品期末たな卸高	1,597,728	999,216
製品売上原価	17,099,055	17,658,416
売上総利益	8,436,531	9,397,577
販売費及び一般管理費		
販売促進費	4,112,856	4,689,308
広告宣伝費	307,630	301,334
発送費	908,765	915,438
販売手数料	316,408	392,677
保管費	140,921	150,573
交際費	58,689	71,173
旅費	51,209	52,309
貸倒引当金繰入額	-	1,500
給料及び手当	473,312	493,875
賞与	140,393	147,076
役員報酬	169,800	153,900
賞与引当金繰入額	70,822	71,657
役員賞与引当金繰入額	9,440	9,040
役員退職慰労引当金繰入額	4,195	4,583
退職給付費用	36,037	36,415
福利厚生費	106,542	122,039
地代家賃	106,813	102,910
租税公課	41,076	39,010
減価償却費	35,799	29,534
研究開発費	<sub>2</sub> 156,246	<sub>2</sub> 131,777
雑費	310,036	387,268
販売費及び一般管理費合計	7,556,998	8,303,403
営業利益	879,533	1,094,174

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	4,291	2,032
受取配当金	7,250	6,386
受取賃貸料	173,837	180,105
副産物収入	44,164	46,797
受取手数料	-	50,766
その他	100,106	51,086
営業外収益合計	329,649	337,174
<b>営業外費用</b>		
支払利息	184,516	192,085
賃貸費用	105,706	106,593
その他	18,577	26,312
営業外費用合計	308,800	324,991
経常利益	900,383	1,106,358
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	<sup>3</sup> 25,406	-
補助金収入	<sup>4</sup> 19,999	<sup>4</sup> 22,500
特別利益合計	45,406	22,500
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	<sup>5</sup> 3,223	<sup>5</sup> 6,746
減損損失	<sup>6</sup> 36,390	-
災害による損失	-	<sup>7</sup> 187,367
投資有価証券評価損	1,492	3,160
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	52,420
特別損失合計	41,106	249,694
税引前当期純利益	904,683	879,164
法人税、住民税及び事業税	378,519	413,124
法人税等調整額	32,526	439
法人税等合計	411,045	413,564
当期純利益	493,638	465,599

## 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)		当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	10,819,536	63.3	10,771,250	63.1
労務費		3,051,528	17.8	3,171,588	18.6
経費		3,228,292	18.9	3,121,885	18.3
当期総製造費用		17,099,357	100.0	17,064,724	100.0
期首仕掛品たな卸高		424,027		330,292	
合計		17,523,385		17,395,016	
期末仕掛品たな卸高		330,292		322,934	
当期製品製造原価		17,193,092		17,072,081	

(注)

前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)																
<p>1 経費の主な内訳は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,042,673千円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>576,591千円</td> </tr> <tr> <td>電力費</td> <td>510,290千円</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>267,552千円</td> </tr> </table>	減価償却費	1,042,673千円	消耗品費	576,591千円	電力費	510,290千円	修繕費	267,552千円	<p>1 経費の主な内訳は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>減価償却費</td> <td>901,285千円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>566,762千円</td> </tr> <tr> <td>電力費</td> <td>514,079千円</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>260,400千円</td> </tr> </table>	減価償却費	901,285千円	消耗品費	566,762千円	電力費	514,079千円	修繕費	260,400千円
減価償却費	1,042,673千円																
消耗品費	576,591千円																
電力費	510,290千円																
修繕費	267,552千円																
減価償却費	901,285千円																
消耗品費	566,762千円																
電力費	514,079千円																
修繕費	260,400千円																
<p>2 原価計算方法</p> <p>原価計算の方法は、原価標準に基づく組別工程別総合原価計算であり、原価差額は期末において売上原価、製品及び仕掛品他に配賦調整を行っております。</p>	<p>2 原価計算方法</p> <p>同左</p>																

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	543,775	543,775
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	543,775	543,775
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	506,000	506,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	506,000	506,000
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	506,000	506,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	506,000	506,000
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	135,943	135,943
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	135,943	135,943
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>特別償却準備金</b>		
前期末残高	-	31,290
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	-	4,470
特別償却準備金の積立	31,290	-
当期変動額合計	31,290	4,470
当期末残高	31,290	26,820
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	6,990,000	7,550,000
当期変動額		
別途積立金の積立	560,000	400,000
当期変動額合計	560,000	400,000
当期末残高	7,550,000	7,950,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	672,739	517,432
当期変動額		
剰余金の配当	57,655	96,092
特別償却準備金の取崩	-	4,470
特別償却準備金の積立	31,290	-
別途積立金の積立	560,000	400,000
当期純利益	493,638	465,599
当期変動額合計	155,307	26,022
当期末残高	517,432	491,410

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	7,798,683	8,234,666
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	57,655	96,092
特別償却準備金の取崩	-	-
特別償却準備金の積立	-	-
別途積立金の積立	-	-
当期純利益	493,638	465,599
<b>当期変動額合計</b>	<b>435,982</b>	<b>369,507</b>
当期末残高	8,234,666	8,604,173
<b>自己株式</b>		
前期末残高	305,467	305,467
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	-	-
<b>当期変動額合計</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
当期末残高	305,467	305,467
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	8,542,990	8,978,973
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	57,655	96,092
当期純利益	493,638	465,599
<b>当期変動額合計</b>	<b>435,982</b>	<b>369,507</b>
当期末残高	8,978,973	9,348,480
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	119,910	143,511
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23,600	52,797
<b>当期変動額合計</b>	<b>23,600</b>	<b>52,797</b>
当期末残高	143,511	90,713
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	119,910	143,511
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23,600	52,797
<b>当期変動額合計</b>	<b>23,600</b>	<b>52,797</b>
当期末残高	143,511	90,713
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	8,662,901	9,122,484
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	57,655	96,092
当期純利益	493,638	465,599
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23,600	52,797
<b>当期変動額合計</b>	<b>459,583</b>	<b>316,710</b>
当期末残高	9,122,484	9,439,194

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	904,683	879,164
減価償却費	1,102,991	953,256
減損損失	36,390	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	120	1,760
賞与引当金の増減額（ は減少）	2,803	6,808
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	1,520	400
退職給付引当金の増減額（ は減少）	5,550	24,558
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	13,087	18,216
受取利息及び受取配当金	11,542	8,418
支払利息	184,516	192,085
固定資産売却損益（ は益）	25,406	-
固定資産除却損	3,223	6,746
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	52,420
投資有価証券評価損益（ は益）	1,492	3,160
売上債権の増減額（ は増加）	103,621	1,441,765
たな卸資産の増減額（ は増加）	1,274,767	1,412,997
仕入債務の増減額（ は減少）	54,962	10,631
未収消費税等の増減額（ は増加）	62,987	62,987
未払消費税等の増減額（ は減少）	243,425	41,753
その他	140,352	131,852
小計	590,803	584,996
法人税等の支払額	739,980	311,165
法人税等の還付額	579	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	148,597	896,161
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額（ は増加）	104,503	2,355
有形固定資産の取得による支出	221,801	308,357
有形固定資産の売却による収入	176,811	-
投資有価証券の取得による支出	1,668	635
有形固定資産の除却による支出	-	515
無形固定資産の取得による支出	2,082	3,586
利息及び配当金の受取額	13,097	9,495
その他	613	2,837
投資活動によるキャッシュ・フロー	139,532	303,116
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	1,400,000	2,400,000
長期借入れによる収入	100,000	300,000
長期借入金の返済による支出	957,832	897,800
リース債務の返済による支出	28,657	19,304
利息の支払額	188,333	189,828
配当金の支払額	57,682	96,077
財務活動によるキャッシュ・フロー	267,494	1,496,989
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	20,636	297,711
現金及び現金同等物の期首残高	41,304	20,668
現金及び現金同等物の期末残高	20,668	318,379

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 関連会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左  時価のないもの 同左
2 たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品及び製品・仕掛品 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定) (2) 原材料 月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定) (3) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)	(1) 商品及び製品・仕掛品 同左 (2) 原材料 同左 (3) 貯蔵品 同左
3 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法 ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15～38年 機械及び装置 10年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法 (3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかるリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 (4) 投資不動産 定率法 ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 10～34年	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左 (3) リース資産 同左 (4) 投資不動産 同左

項目	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
4 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を基準として計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込み額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当期末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を、それぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。 また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額はありません。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当期末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を、それぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期資金からなっております。	同左
6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。	消費税等の会計処理 同左

## 【会計方針の変更】

前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
	(資産除去債務に関する会計基準等) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益は520千円、経常利益は824千円、税引前当期純利益は53,244千円それぞれ減少しております。

## 【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
(損益計算書) 1 前事業年度において営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「副産物収入」は営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度においては区分掲記することといたしました。なお、前事業年度の「副産物収入」は53,049千円です。 2 前事業年度において区分掲記しておりました営業外収益の「受取手数料」(当事業年度25,369千円)は営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度においては営業外収益の「その他」に含めて表示しております。	(損益計算書) 1 前事業年度において営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取手数料」は営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度においては区分掲記することといたしました。なお、前事業年度の「受取手数料」は25,369千円です。

## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年4月30日)	当事業年度 (平成23年4月30日)																																																																														
<p>1 担保に供している資産</p> <p>工場財団</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">2,216,707千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">140,066千円</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">2,887,925千円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">32,861千円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">967,903千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">6,245,464千円</td></tr> </table> <p>その他</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">100,064千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">6,628千円</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">11,317千円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">8,949千円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">636,226千円</td></tr> <tr><td>投資不動産</td><td style="text-align: right;">1,152,211千円</td></tr> <tr><td>流動資産のその他</td><td style="text-align: right;">8,625千円</td></tr> <tr><td>投資その他の資産のその他</td><td style="text-align: right;">71,381千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">1,995,405千円</td></tr> </table> <p>上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>支払手形</td><td style="text-align: right;">302,559千円</td></tr> <tr><td>短期借入金</td><td style="text-align: right;">5,397,730千円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td style="text-align: right;">753,300千円</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td style="text-align: right;">2,221,620千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">8,675,209千円</td></tr> </table>	建物	2,216,707千円	構築物	140,066千円	機械及び装置	2,887,925千円	工具、器具及び備品	32,861千円	土地	967,903千円	計	6,245,464千円	建物	100,064千円	構築物	6,628千円	機械及び装置	11,317千円	工具、器具及び備品	8,949千円	土地	636,226千円	投資不動産	1,152,211千円	流動資産のその他	8,625千円	投資その他の資産のその他	71,381千円	計	1,995,405千円	支払手形	302,559千円	短期借入金	5,397,730千円	1年内返済予定の長期借入金	753,300千円	長期借入金	2,221,620千円	計	8,675,209千円	<p>1 担保に供している資産</p> <p>工場財団</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">2,095,819千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">147,484千円</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">2,423,491千円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">23,604千円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">967,903千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">5,658,304千円</td></tr> </table> <p>その他</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">77,883千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">5,460千円</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">7,627千円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">9,576千円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">636,226千円</td></tr> <tr><td>投資不動産</td><td style="text-align: right;">1,145,051千円</td></tr> <tr><td>流動資産のその他</td><td style="text-align: right;">8,625千円</td></tr> <tr><td>投資その他の資産のその他</td><td style="text-align: right;">63,502千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">1,953,953千円</td></tr> </table> <p>上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>短期借入金</td><td style="text-align: right;">6,595,570千円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td style="text-align: right;">699,360千円</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td style="text-align: right;">1,522,260千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">8,817,190千円</td></tr> </table>	建物	2,095,819千円	構築物	147,484千円	機械及び装置	2,423,491千円	工具、器具及び備品	23,604千円	土地	967,903千円	計	5,658,304千円	建物	77,883千円	構築物	5,460千円	機械及び装置	7,627千円	工具、器具及び備品	9,576千円	土地	636,226千円	投資不動産	1,145,051千円	流動資産のその他	8,625千円	投資その他の資産のその他	63,502千円	計	1,953,953千円	短期借入金	6,595,570千円	1年内返済予定の長期借入金	699,360千円	長期借入金	1,522,260千円	計	8,817,190千円
建物	2,216,707千円																																																																														
構築物	140,066千円																																																																														
機械及び装置	2,887,925千円																																																																														
工具、器具及び備品	32,861千円																																																																														
土地	967,903千円																																																																														
計	6,245,464千円																																																																														
建物	100,064千円																																																																														
構築物	6,628千円																																																																														
機械及び装置	11,317千円																																																																														
工具、器具及び備品	8,949千円																																																																														
土地	636,226千円																																																																														
投資不動産	1,152,211千円																																																																														
流動資産のその他	8,625千円																																																																														
投資その他の資産のその他	71,381千円																																																																														
計	1,995,405千円																																																																														
支払手形	302,559千円																																																																														
短期借入金	5,397,730千円																																																																														
1年内返済予定の長期借入金	753,300千円																																																																														
長期借入金	2,221,620千円																																																																														
計	8,675,209千円																																																																														
建物	2,095,819千円																																																																														
構築物	147,484千円																																																																														
機械及び装置	2,423,491千円																																																																														
工具、器具及び備品	23,604千円																																																																														
土地	967,903千円																																																																														
計	5,658,304千円																																																																														
建物	77,883千円																																																																														
構築物	5,460千円																																																																														
機械及び装置	7,627千円																																																																														
工具、器具及び備品	9,576千円																																																																														
土地	636,226千円																																																																														
投資不動産	1,145,051千円																																																																														
流動資産のその他	8,625千円																																																																														
投資その他の資産のその他	63,502千円																																																																														
計	1,953,953千円																																																																														
短期借入金	6,595,570千円																																																																														
1年内返済予定の長期借入金	699,360千円																																																																														
長期借入金	1,522,260千円																																																																														
計	8,817,190千円																																																																														
<p>2 偶発債務</p> <p>仕入取引の担保として差し入れた振出手形</p> <p style="text-align: right;">101,000千円</p>	<p>2 偶発債務</p> <p>仕入取引の担保として差し入れた振出手形</p> <p style="text-align: right;">101,000千円</p>																																																																														
	<p>3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期支払手形及び設備関係支払手形が、当期末日残高に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>支払手形</td><td style="text-align: right;">219,866千円</td></tr> <tr><td>設備関係支払手形</td><td style="text-align: right;">5,314千円</td></tr> </table>	支払手形	219,866千円	設備関係支払手形	5,314千円																																																																										
支払手形	219,866千円																																																																														
設備関係支払手形	5,314千円																																																																														

## (損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)		当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)	
1 他勘定への振替高は次のとおりであります。		1 他勘定への振替高は次のとおりであります。	
販売促進費	19,061千円	販売促進費	13,679千円
広告宣伝費	2,019千円	広告宣伝費	9,863千円
交際費	1,900千円	交際費	2,754千円
研究開発費	685千円	研究開発費	1,066千円
営業外費用その他	1,467千円	営業外費用その他	2,835千円
計	25,135千円	計	30,200千円
2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は次のとおりであります。		2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は次のとおりであります。	
一般管理費	156,246千円	一般管理費	131,777千円
当期製造費用	千円	当期製造費用	千円
計	156,246千円	計	131,777千円
3 固定資産売却益は全額土地であります。			
4 補助金収入は全額太陽光発電設備導入事業補助金であります。		4 補助金収入は、D M E 燃料利用設備導入促進補助金であります。	
5 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。		5 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。	
建物	412千円	建物	39千円
構築物	626千円	機械及び装置	6,596千円
機械及び装置	1,986千円	車両運搬具	47千円
車両運搬具	94千円	工具、器具及び備品	62千円
工具、器具及び備品	103千円	計	6,746千円
計	3,223千円		
6 減損損失			
当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。			
用途	場所	種類	金額
貸貸用資産	新潟県 新潟市東区	投資不動産 (土地)	36,390千円
<p>当社は、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、貸貸用資産及び遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。</p> <p>その結果、事業用資産については減損の兆候はありませんでしたが、収支が継続してマイナス見込となっている貸貸用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(36,390千円)として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、貸貸用資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等を勘案した合理的な見積りによって算定しております。</p>			
		7 災害による損失は、平成23年3月に発生した東日本大震災による原材料の滅失損失であります。	

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,075,500			5,075,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	270,899			270,899

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年7月24日 定時株主総会	普通株式	57,655	12.00	平成21年4月30日	平成21年7月27日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年7月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	96,092	20.00	平成22年4月30日	平成22年7月22日

当事業年度(自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,075,500			5,075,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	270,899			270,899

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年7月21日 定時株主総会	普通株式	96,092	20.00	平成22年4月30日	平成22年7月22日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年7月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	72,069	15.00	平成23年4月30日	平成23年7月28日

## (キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)		当事業年度 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係		現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係	
現金及び預金勘定	1,779,649千円	現金及び預金勘定	2,079,716千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	1,758,981千円	預入期間が3か月を超える 定期預金	1,761,337千円
現金及び現金同等物	20,668千円	現金及び現金同等物	318,379千円

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)		当事業年度 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)	
1 ファイナンス・リース取引(借主側)		1 ファイナンス・リース取引(借主側)	
(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引		(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引	
リース資産の内容		リース資産の内容	
有形固定資産		有形固定資産	
主として、ホストコンピュータ、コンピュータ端 末機及び工場生産設備(機械及び装置)でありま す。		同左	
無形固定資産		無形固定資産	
ソフトウェアであります。		同左	
リース資産の減価償却の方法		リース資産の減価償却の方法	
有形固定資産		有形固定資産	
重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方 法」に記載のとおりであります。		同左	
2 オペレーティング・リース取引(借主側)		2 オペレーティング・リース取引(借主側)	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能の ものに係る未経過リース料		オペレーティング・リース取引のうち解約不能の ものに係る未経過リース料	
未経過リース料		未経過リース料	
1年以内	691千円	1年以内	691千円
1年超	1,324千円	1年超	633千円
合計	2,016千円	合計	1,324千円

(金融商品関係)

前事業年度(自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金調達については主に銀行等金融機関からの借入により資金調達しております。

また、資金運用については安全性が高く短期的な預金等に限定し運用しております。なお、デリバティブ等の投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程及び売掛金管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、担当部署が適時に月次の資金繰計画を作成・更新するとともに、全社一括支払システムにより資金需要を把握し、必要に応じ短期借入金の実行若しくは返済を行い手元流動性を維持することによりリスク管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動する場合があります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年4月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(「(注)2」参照)

	貸借対照表計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,779,649	1,779,649	
(2) 受取手形	14,578	14,578	
(3) 売掛金	4,100,378	4,100,378	
(4) 投資有価証券 その他有価証券	469,678	469,678	
資産計	6,364,284	6,364,284	
(1) 支払手形	857,392	857,392	
(2) 買掛金	322,469	322,469	
(3) 短期借入金	7,050,000	7,050,000	
(4) 未払金	972,569	972,569	
(5) 長期借入金(1年以内返済予定を含む)	3,139,020	3,139,733	713
負債計	12,341,451	12,342,164	713

(注) 1 金融商品の時価の算定方法

資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負債

- (1) 支払手形、(2) 買掛金、(3) 短期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 長期借入金(1年以内返済予定を含む)

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

- (注) 2 非上場株式(貸借対照表計上額111,719千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、資産における「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

- (注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)
(1) 現金及び預金	1,779,649	
(2) 受取手形	14,578	
(3) 売掛金	4,100,378	
合計	5,894,606	

- (注) 4 長期借入金の決算日後の返済予定額

	1年以内(千円)	1年超2年以内(千円)	2年超3年以内(千円)	3年超4年以内(千円)	4年超5年以内(千円)	5年超(千円)
長期借入金	847,700	699,000	565,900	490,460	261,560	274,400
合計	847,700	699,000	565,900	490,460	261,560	274,400

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当事業年度(自平成22年5月1日至平成23年4月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

- (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金調達については主に銀行等金融機関からの借入により行っております。また、資金運用については安全性が高く短期的な預金等に限定しており、デリバティブ等の投機的な取引は行わない方針であります。

- (2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。

- (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程及び売掛金管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、担当部署が適時に月次の資金繰計画を作成・更新するとともに、全社一括支払システムにより資金需要を把握し、必要に応じ短期借入金の実行若しくは返済を行い手元流動性を維持することによりリスク管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動する場合があります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年4月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(「(注)2」参照)

	貸借対照表計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,079,716	2,079,716	
(2) 受取手形	13,909	13,909	
(3) 売掛金	5,542,813	5,542,813	
(4) 投資有価証券 その他有価証券	389,153	389,153	
資産計	8,025,593	8,025,593	
(1) 支払手形	760,934	760,934	
(2) 買掛金	408,295	408,295	
(3) 短期借入金	9,450,000	9,450,000	
(4) 未払金	1,148,527	1,148,527	
(5) 長期借入金(1年以内返済予定を含む)	2,541,220	2,541,555	335
負債計	14,308,978	14,309,313	335

(注)1 金融商品の時価の算定方法

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負 債

- (1) 支払手形、(2) 買掛金、(3) 短期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 長期借入金(1年以内返済予定を含む)

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

- (注)2 非上場株式(貸借対照表計上額111,719千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、資産における「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

- (注)3 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)
(1) 現金及び預金	2,079,716	
(2) 受取手形	13,909	
(3) 売掛金	5,542,813	
合計	7,636,439	

(注) 4 長期借入金の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	798,960	665,860	540,440	261,560	169,400	105,000
合計	798,960	665,860	540,440	261,560	169,400	105,000

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年4月30日)

1 その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	425,421	219,019	206,401
	債券 その他			
	小計	425,421	219,019	206,401
貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	44,257	45,338	1,081
	債券 その他			
	小計	44,257	45,338	1,081
	合計	469,678	264,357	205,320

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額111,719千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、投資有価証券のうち非上場株式について1,492千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当事業年度(平成23年4月30日)

1 その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	355,600	222,455	133,144
	債券 その他			
	小計	355,600	222,455	133,144
貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	33,553	39,377	5,824
	債券 その他			
	小計	33,553	39,377	5,824
	合計	389,153	261,833	127,320

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額111,719千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、投資有価証券で時価のある株式について3,160千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)																												
<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付企業年金制度を採用しております。 なお、平成21年11月に、適格退職年金制度から確定給付企業年金制度に移行しました。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付企業年金制度を採用しております。</p>																												
<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">1,486,985千円</td> </tr> <tr> <td>(2) 年金資産</td> <td style="text-align: right;">988,386千円</td> </tr> <tr> <td>(3) 未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">498,598千円</td> </tr> <tr> <td>(4) 未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">68,375千円</td> </tr> <tr> <td>(5) 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">66,177千円</td> </tr> <tr> <td>(6) 退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">500,797千円</td> </tr> </table>	(1) 退職給付債務	1,486,985千円	(2) 年金資産	988,386千円	(3) 未積立退職給付債務	498,598千円	(4) 未認識過去勤務債務	68,375千円	(5) 未認識数理計算上の差異	66,177千円	(6) 退職給付引当金	500,797千円	<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">1,571,035千円</td> </tr> <tr> <td>(2) 年金資産</td> <td style="text-align: right;">1,103,748千円</td> </tr> <tr> <td>(3) 未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">467,287千円</td> </tr> <tr> <td>(4) 未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">61,114千円</td> </tr> <tr> <td>(5) 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">52,163千円</td> </tr> <tr> <td>(6) 退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">476,238千円</td> </tr> </table>	(1) 退職給付債務	1,571,035千円	(2) 年金資産	1,103,748千円	(3) 未積立退職給付債務	467,287千円	(4) 未認識過去勤務債務	61,114千円	(5) 未認識数理計算上の差異	52,163千円	(6) 退職給付引当金	476,238千円				
(1) 退職給付債務	1,486,985千円																												
(2) 年金資産	988,386千円																												
(3) 未積立退職給付債務	498,598千円																												
(4) 未認識過去勤務債務	68,375千円																												
(5) 未認識数理計算上の差異	66,177千円																												
(6) 退職給付引当金	500,797千円																												
(1) 退職給付債務	1,571,035千円																												
(2) 年金資産	1,103,748千円																												
(3) 未積立退職給付債務	467,287千円																												
(4) 未認識過去勤務債務	61,114千円																												
(5) 未認識数理計算上の差異	52,163千円																												
(6) 退職給付引当金	476,238千円																												
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">90,756千円</td> </tr> <tr> <td>(2) 利息費用</td> <td style="text-align: right;">30,020千円</td> </tr> <tr> <td>(3) 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">19,064千円</td> </tr> <tr> <td>(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">4,235千円</td> </tr> <tr> <td>(5) 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">16,467千円</td> </tr> <tr> <td>(6) 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">113,944千円</td> </tr> </table>	(1) 勤務費用	90,756千円	(2) 利息費用	30,020千円	(3) 期待運用収益	19,064千円	(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額	4,235千円	(5) 数理計算上の差異の費用処理額	16,467千円	(6) 退職給付費用	113,944千円	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">88,989千円</td> </tr> <tr> <td>(2) 利息費用</td> <td style="text-align: right;">29,739千円</td> </tr> <tr> <td>(3) 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">19,767千円</td> </tr> <tr> <td>(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">7,261千円</td> </tr> <tr> <td>(5) 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">17,609千円</td> </tr> <tr> <td>(6) 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">109,309千円</td> </tr> </table>	(1) 勤務費用	88,989千円	(2) 利息費用	29,739千円	(3) 期待運用収益	19,767千円	(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額	7,261千円	(5) 数理計算上の差異の費用処理額	17,609千円	(6) 退職給付費用	109,309千円				
(1) 勤務費用	90,756千円																												
(2) 利息費用	30,020千円																												
(3) 期待運用収益	19,064千円																												
(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額	4,235千円																												
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	16,467千円																												
(6) 退職給付費用	113,944千円																												
(1) 勤務費用	88,989千円																												
(2) 利息費用	29,739千円																												
(3) 期待運用収益	19,767千円																												
(4) 過去勤務債務の差異の費用処理額	7,261千円																												
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	17,609千円																												
(6) 退職給付費用	109,309千円																												
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 割引率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>(2) 期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>(3) 退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>(4) 過去勤務債務の額の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)</td> </tr> <tr> <td>(5) 数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)</td> </tr> </table>	(1) 割引率	2.0%	(2) 期待運用収益率	2.0%	(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	(4) 過去勤務債務の額の処理年数	10年	(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)		(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年	(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)		<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 割引率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>(2) 期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">2.0%</td> </tr> <tr> <td>(3) 退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>(4) 過去勤務債務の額の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)</td> </tr> <tr> <td>(5) 数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)</td> </tr> </table>	(1) 割引率	2.0%	(2) 期待運用収益率	2.0%	(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	(4) 過去勤務債務の額の処理年数	10年	(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)		(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年	(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)	
(1) 割引率	2.0%																												
(2) 期待運用収益率	2.0%																												
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																												
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	10年																												
(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)																													
(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年																												
(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)																													
(1) 割引率	2.0%																												
(2) 期待運用収益率	2.0%																												
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																												
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	10年																												
(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法によっております。)																													
(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年																												
(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。)																													

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年4月30日)	当事業年度 (平成23年4月30日)																																																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">104,396千円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">12,296千円</td></tr> <tr><td>未払社会保険料</td><td style="text-align: right;">14,022千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">202,322千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">35,769千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">52,325千円</td></tr> <tr><td>関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">20,199千円</td></tr> <tr><td>会員権評価損</td><td style="text-align: right;">19,319千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">11,639千円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">48,560千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">29,017千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">549,868千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">174,809千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">375,058千円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">21,210千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">61,809千円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">83,019千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">292,039千円</td></tr> </table>	賞与引当金	104,396千円	未払事業税	12,296千円	未払社会保険料	14,022千円	退職給付引当金	202,322千円	役員退職慰労引当金	35,769千円	投資有価証券評価損	52,325千円	関係会社株式評価損	20,199千円	会員権評価損	19,319千円	貸倒引当金	11,639千円	減損損失	48,560千円	その他	29,017千円	繰延税金資産小計	549,868千円	評価性引当額	174,809千円	繰延税金資産合計	375,058千円	特別償却準備金	21,210千円	その他有価証券評価差額金	61,809千円	繰延税金負債合計	83,019千円	繰延税金資産の純額	292,039千円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">107,146千円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">19,696千円</td></tr> <tr><td>未払社会保険料</td><td style="text-align: right;">14,679千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">192,400千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">28,409千円</td></tr> <tr><td>たな卸資産災害損失</td><td style="text-align: right;">22,454千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">49,552千円</td></tr> <tr><td>関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">20,199千円</td></tr> <tr><td>会員権評価損</td><td style="text-align: right;">19,319千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">12,350千円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">47,952千円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">23,487千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">12,945千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">570,594千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">197,028千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">373,565千円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>資産除去債務に対応する費用</td><td style="text-align: right;">1,976千円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">18,180千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">36,606千円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">56,763千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">316,802千円</td></tr> </table>	賞与引当金	107,146千円	未払事業税	19,696千円	未払社会保険料	14,679千円	退職給付引当金	192,400千円	役員退職慰労引当金	28,409千円	たな卸資産災害損失	22,454千円	投資有価証券評価損	49,552千円	関係会社株式評価損	20,199千円	会員権評価損	19,319千円	貸倒引当金	12,350千円	減損損失	47,952千円	資産除去債務	23,487千円	その他	12,945千円	繰延税金資産小計	570,594千円	評価性引当額	197,028千円	繰延税金資産合計	373,565千円	資産除去債務に対応する費用	1,976千円	特別償却準備金	18,180千円	その他有価証券評価差額金	36,606千円	繰延税金負債合計	56,763千円	繰延税金資産の純額	316,802千円
賞与引当金	104,396千円																																																																														
未払事業税	12,296千円																																																																														
未払社会保険料	14,022千円																																																																														
退職給付引当金	202,322千円																																																																														
役員退職慰労引当金	35,769千円																																																																														
投資有価証券評価損	52,325千円																																																																														
関係会社株式評価損	20,199千円																																																																														
会員権評価損	19,319千円																																																																														
貸倒引当金	11,639千円																																																																														
減損損失	48,560千円																																																																														
その他	29,017千円																																																																														
繰延税金資産小計	549,868千円																																																																														
評価性引当額	174,809千円																																																																														
繰延税金資産合計	375,058千円																																																																														
特別償却準備金	21,210千円																																																																														
その他有価証券評価差額金	61,809千円																																																																														
繰延税金負債合計	83,019千円																																																																														
繰延税金資産の純額	292,039千円																																																																														
賞与引当金	107,146千円																																																																														
未払事業税	19,696千円																																																																														
未払社会保険料	14,679千円																																																																														
退職給付引当金	192,400千円																																																																														
役員退職慰労引当金	28,409千円																																																																														
たな卸資産災害損失	22,454千円																																																																														
投資有価証券評価損	49,552千円																																																																														
関係会社株式評価損	20,199千円																																																																														
会員権評価損	19,319千円																																																																														
貸倒引当金	12,350千円																																																																														
減損損失	47,952千円																																																																														
資産除去債務	23,487千円																																																																														
その他	12,945千円																																																																														
繰延税金資産小計	570,594千円																																																																														
評価性引当額	197,028千円																																																																														
繰延税金資産合計	373,565千円																																																																														
資産除去債務に対応する費用	1,976千円																																																																														
特別償却準備金	18,180千円																																																																														
その他有価証券評価差額金	36,606千円																																																																														
繰延税金負債合計	56,763千円																																																																														
繰延税金資産の純額	316,802千円																																																																														
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4 %</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.0 %</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.5 %</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1.7 %</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.2 %</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">45.4 %</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4 %	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0 %	住民税均等割額	0.5 %	評価性引当額	1.7 %	その他	0.2 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.4 %	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4 %</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.8 %</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.5 %</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">2.5 %</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.2 %</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">47.0 %</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4 %	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	3.8 %	住民税均等割額	0.5 %	評価性引当額	2.5 %	その他	0.2 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.0 %																																																		
法定実効税率	40.4 %																																																																														
(調整)																																																																															
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0 %																																																																														
住民税均等割額	0.5 %																																																																														
評価性引当額	1.7 %																																																																														
その他	0.2 %																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.4 %																																																																														
法定実効税率	40.4 %																																																																														
(調整)																																																																															
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.8 %																																																																														
住民税均等割額	0.5 %																																																																														
評価性引当額	2.5 %																																																																														
その他	0.2 %																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.0 %																																																																														

(持分法損益等)

前事業年度 (自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)	当事業年度 (自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)
<p>1 関連会社に関する事項</p> <p>当社が有しているすべての関連会社は、利益基準及び剰余金からみて重要性の乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。</p>	<p>1 関連会社に関する事項</p> <p style="text-align: center;">同左</p>
<p>2 開示対象特別目的会社に関する事項</p> <p>当社は、開示対象特別目的会社を有していません。</p>	<p>2 開示対象特別目的会社に関する事項</p> <p style="text-align: center;">同左</p>

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)

当社では、新潟県において、賃貸用の店舗等(土地を含む)及び遊休不動産として工場建設予定地等を所有しております。平成22年4月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は30,552千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)、減損損失36,390千円(特別損失に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当事業年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額 (千円)			当事業年度末の時価 (千円)
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
2,711,857	202,718	2,521,720	3,308,074

- (注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
 2 当事業年度増減額のうち、主な減少額は不動産売却(151,338千円)、減損損失(36,390千円)及び減価償却費によるものであります。なお、不動産売却における売却損益は25,215千円(特別利益の固定資産売却益に計上)であります。  
 3 当事業年度末の時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(追加情報)

当事業年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

当社では、新潟県において、賃貸用の店舗等(土地を含む)及び遊休不動産として工場建設予定地等を所有しております。平成23年4月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は38,613千円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当事業年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額 (千円)			当事業年度末の時価 (千円)
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
2,521,720	11,891	2,509,829	3,220,251

- (注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
 2 当事業年度増減額のうち、主な減少額は減価償却費によるものであります。  
 3 当事業年度末の時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	包装餅製品	包装米飯製品	その他製品	合計
外部顧客への売上高	13,666,806	13,372,501	16,686	27,055,994

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
三菱商事(株)	7,735,305
加藤産業(株)	6,984,576
伊藤忠商事(株)	4,972,645
三井物産(株)	2,729,482

(注)当社は、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)

関連当事者との取引

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年5月1日 至 平成23年4月30日)

関連当事者との取引

該当事項はありません。

[次へ](#)

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
1株当たり純資産額	1,898円70銭	1,964円62銭
1株当たり当期純利益金額	102円74銭	96円91銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

項目	前事業年度末 (平成22年 4月30日)	当事業年度末 (平成23年 4月30日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	9,122,484	9,439,194
普通株式に係る純資産額(千円)	9,122,484	9,439,194
普通株式の発行済株式数(千株)	5,075	5,075
普通株式の自己株式数(千株)	270	270
1株当たりの純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	4,804	4,804

2 1株当たり当期純利益金額

	前事業年度 (自 平成21年 5月 1日 至 平成22年 4月30日)	当事業年度 (自 平成22年 5月 1日 至 平成23年 4月30日)
当期純利益(千円)	493,638	465,599
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	493,638	465,599
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,804	4,804

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価 証券	その他 有価証券	(株)菱食	102,812	176,324
		一正蒲鉾(株)	258,400	116,280
		ホテル朱鷺メッセ(株)	2,220	104,000
		加藤産業(株)	36,336	49,489
		(株)第四銀行	78,126	19,844
		(株)北越銀行	61,916	10,773
		イズミヤ(株)	20,000	7,020
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,720	4,148
		(株)エフエムラジオ新潟	64	3,200
		王子製紙(株)	7,000	2,541
		その他7銘柄	109,948	7,252
		計	687,543	500,873

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	7,371,180	44,657	1,988	7,413,849	5,215,074	155,989	2,198,774
構築物	808,440	28,525		836,965	684,016	22,278	152,949
機械及び装置	16,637,740	245,499	103,701	16,779,538	14,348,419	699,894	2,431,118
車両運搬具	146,445	7,768	2,399	151,814	135,923	10,551	15,890
工具、器具及び備品	782,500	15,739	16,207	782,033	741,744	26,461	40,288
土地	1,821,489			1,821,489			1,821,489
リース資産	71,147		12,158	58,988	34,672	15,164	24,315
建設仮勘定	1,629	452,242	451,424	2,447			2,447
有形固定資産計	27,640,573	794,432	587,880	27,847,125	21,159,850	930,340	6,687,274
無形固定資産							
借地権				243			243
ソフトウェア				17,000	5,383	3,400	11,616
リース資産				12,468	6,441	4,140	6,026
電話加入権				8,887			8,887
無形固定資産計				38,598	11,825	7,540	26,773
投資その他の資産							
長期前払費用	9,963	1,058	1,056	9,965	6,283	1,477	3,681
投資不動産	2,568,381	16,562		2,584,943	581,559	13,897	2,003,383
投資その他の資産計	2,578,344	17,620	1,056	2,594,908	587,843	15,375	2,007,065

(注) 1 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

構築物	新発田工場	DME燃料ボイラ用タンク	26,545千円
機械及び装置	新発田工場	DME燃料ボイラ設備	69,119千円
	東港工場	包装米飯製造設備	59,985千円
	新発田工場	包装餅及び包装米飯製造設備	47,619千円
	北海道工場	包装餅及び包装米飯製造設備	31,715千円
	佐賀工場	包装餅製造設備	29,927千円

2 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	7,050,000	9,450,000	1.4	
1年以内に返済予定の長期借入金	847,700	798,960	1.4	
1年以内に返済予定のリース債務	19,814	13,937		
長期借入金(1年以内返済予定のものを除く。)	2,291,320	1,742,260	1.5	平成24年～平成31年
リース債務(1年以内返済予定のものを除く。)	31,299	17,361		
その他有利子負債				
合計	10,240,133	12,022,519		

- (注) 1 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。  
 3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日後5年以内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	665,860	540,440	261,560	169,400
リース債務	11,394	4,814	1,152	

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	28,810	30,570		28,810	30,570
賞与引当金	258,406	265,214	258,406		265,214
役員賞与引当金	9,440	9,040	9,440		9,040
役員退職慰労引当金	88,537	4,583	22,800		70,320

- (注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」は、洗替によるものであります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度末における資産除去債務の金額が、当該事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	846
預金の種類	
当座預金	120
普通預金	317,412
定期預金	1,761,337
計	2,078,869
合計	2,079,716

ロ 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ヤマト松井本店	13,177
函館米穀(株)	731
合計	13,909

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年 5月	13,367
"  6月	541
合計	13,909

ハ 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
三菱商事(株)	2,202,695
加藤産業(株)	1,280,181
伊藤忠商事(株)	949,211
三井物産(株)	374,522
イオン商品調達(株)	155,521
その他	580,682
合計	5,542,813

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$
(A)	(B)	(C)	(D)		365
4,100,378	28,408,794	26,966,359	5,542,813	83.0	61.9

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

ニ 商品及び製品

区分	金額(千円)
包装餅	582,196
包装米飯	416,974
その他	44
合計	999,216

## ホ 仕掛品

区分	金額(千円)
包装餅	303,847
包装米飯	19,087
合計	322,934

## ヘ 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原料米	6,198,600
包装資材	254,767
予備部品	65,340
燃料	5,220
その他	2,134
合計	6,526,063

## 負債の部

## イ 支払手形

## 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
東洋製罐(株)	462,776
大日本印刷(株)	56,818
(株)長和	51,334
藤屋段ボール(株)	29,912
レンゴー(株)	29,461
その他	130,631
合計	760,934

## 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年4月	219,866
" 5月	249,845
" 6月	291,222
合計	760,934

(注) 平成23年4月期日の支払手形金額は、全額期末日満期手形であります。

## ロ 買掛金

相手先	金額(千円)
東洋製罐(株)	203,946
(株)長和	68,253
大日本印刷(株)	21,846
(株)パールライス宮城	12,157
北海道エナジティック(株)	10,708
その他	91,383
合計	408,295

## ハ 短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)第四銀行	2,150,000
農林中央金庫	1,950,000
(株)三菱東京UFJ銀行	1,400,000
(株)三井住友銀行	1,350,000
(株)北越銀行	1,300,000
その他	1,300,000
合計	9,450,000

## ニ 未払金

内 訳	金額(千円)
-----	--------

未払販売促進費	585,995
未払販売手数料	362,686
未払発送費	69,935
その他	129,911
合計	1,148,527

## ホ 長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)日本政策金融公庫	1,188,000 ( 302,000 )
(株)日本政策投資銀行	615,200 ( 136,200 )
(株)北越銀行	298,130 ( 120,000 )
(株)三井住友銀行	98,200 ( 53,200 )
(株)北海道銀行	86,640 ( 22,560 )
その他	255,050 ( 165,000 )
合計	2,541,220 ( 798,960 )

(注) 括弧内の金額は内数であり、1年以内返済予定額であります。

## (3) 【その他】

## 当事業年度における各四半期会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	第2四半期 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)	第3四半期 (自平成22年11月1日 至平成23年1月31日)	第4四半期 (自平成23年2月1日 至平成23年4月30日)
売上高 (千円)	3,246,990	5,662,769	11,767,133	6,379,101
税引前 四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( ) (千円)	460,977	32,064	1,277,936	30,141
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( ) (千円)	312,430	11,948	753,276	12,805
1株当たり 四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( ) (円)	65.03	2.49	156.78	2.67

## 決算日後の状況

特記事項はありません。

## 訴訟事件等

当社が製造・販売する切込み入り切り餅について、越後製菓株式会社(以下「原告」という)から当社に対し、原告所有の特許権を侵害するものとして、平成21年3月11日付で東京地方裁判所に当該製品の製造・販売等差止め請求及び損害賠償を求める訴訟提起がなされましたが、平成22年11月30日付で同裁判所より原告の請求をいずれも棄却し、訴訟費用は原告の負担とする旨の判決が下されております。

これに対し、平成22年12月13日付で原告から同判決を不服とした控訴の提起があったため、当社は控訴審においても、第一審に引き続き当社の正当性を主張してまいりましたが、平成23年5月9日に知財高等裁判所で控訴審の弁論終結が宣言され、平成23年9月7日に判決が言い渡される予定であります。

当社は控訴審の判決におきましても、第一審と同様に当社の正当性が認められるものと確信しております。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで								
定時株主総会	7月中								
基準日	4月30日								
剰余金の配当の基準日	10月31日、4月30日								
1単元の株式数	100株								
単元未満株式の買取り									
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部								
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社								
取次所									
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額								
公告掲載方法	電子公告( <a href="http://www.satosyokuhin.co.jp/">http://www.satosyokuhin.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載しておこないます。								
株主に対する特典	毎年10月31日現在の株主名簿に記載された、100株以上を保有される株主の皆様に対して、下記の贈呈基準をもとに当社製品の詰め合わせを贈呈いたします。 贈呈基準 <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>100株以上 1,000株未満</td> <td>1,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上 3,000株未満</td> <td>3,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>3,000株以上 5,000株未満</td> <td>5,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> <tr> <td>5,000株以上</td> <td>7,000円相当の製品詰め合わせ</td> </tr> </table>	100株以上 1,000株未満	1,000円相当の製品詰め合わせ	1,000株以上 3,000株未満	3,000円相当の製品詰め合わせ	3,000株以上 5,000株未満	5,000円相当の製品詰め合わせ	5,000株以上	7,000円相当の製品詰め合わせ
100株以上 1,000株未満	1,000円相当の製品詰め合わせ								
1,000株以上 3,000株未満	3,000円相当の製品詰め合わせ								
3,000株以上 5,000株未満	5,000円相当の製品詰め合わせ								
5,000株以上	7,000円相当の製品詰め合わせ								

(注)当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第50期(自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)平成22年7月21日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第50期(自 平成21年5月1日 至 平成22年4月30日)平成22年7月21日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第51期第1四半期(自 平成22年5月1日 至 平成22年7月31日)平成22年9月14日関東財務局長に提出。

第51期第2四半期(自 平成22年8月1日 至 平成22年10月31日)平成22年12月15日関東財務局長に提出。

第51期第3四半期(自 平成22年11月1日 至 平成23年1月31日)平成23年3月17日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書  
平成22年12月22日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年7月6日

佐藤食品工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 白 井 正

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 代 勲

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の平成21年5月1日から平成22年4月30日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社の平成22年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、佐藤食品工業株式会社の平成22年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、佐藤食品工業株式会社が平成22年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
  - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年7月15日

佐藤食品工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 白 井 正

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 代 勲

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の平成22年5月1日から平成23年4月30日までの第51期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社の平成23年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、佐藤食品工業株式会社の平成23年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、佐藤食品工業株式会社が平成23年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
  - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。